

「皆の身近な存在に」を 目指した活動

～富加町民生委員児童委員協議会～

富加町について

富加町は、岐阜県の中心よりやや南に位置し、大きさ4 km四方、人口約5,700人の田園風景の残る自然豊かなコンパクトなまちです。町内には、史跡や古墳、城跡などが多く残っており、富加町の歴史や文化を語る上で最も重要なのが、日本最古の戸籍「半布里戸籍」ゆかりの地であること。「半布里戸籍」は、大宝2(702)年に作られたもので、奈良正倉院に残されている現存する最古の戸籍です。半布里(はにゅうり)とは古代の地名であり、現在の富加町あたりを指すと考えられています。また、最近では「夕田墳墓群」を国史跡に指定することを文部科学大臣に答申しているところで、大変歴史豊かな町です。

民生委員・児童委員としての活動

富加町民生委員児童委員協議会は、14名(うち主任児童委員2名)で活動しています。

全委員が、町内の小学校へ年2回訪問し、子どもたちの授業風景を見学し、その後先生との意見交換を行います。各委員が、地域で見守っている子どもたちの姿を先生にお伝えする機会となっています。

各自治会で開催される、ふれあい・いきいきサロン(高齢者サロン)には、担当地区の民生委員・児童委員が、サロンの協力員としてスタッフのお手伝いをします。引きこもりがちの高齢者を各戸訪問し、なんとか参加してもらい、「楽しかった、また参加したい」というお声をいただくこともあり、

この活動をしていて良かったと思えました。
また、毎年暑くなる時期に合わせて、熱中症注意啓発として独居世帯等を訪問し、安全確認を行い、熱中症対策グッズを配っています。独居・高齢者のみの世帯が増加傾向にある中で、危険な暑さの日の多くなってきましたので、日々気を付けて見守りを行っています。

高齢者サロン



下滝田公民館



栢洞公民館

他にも、近隣の町の民生委員・児童委員との交流会も行っています。お互いの活動内容や抱えている問題点などを話し合い地元での活動に生かしています。

毎月行う定例会では、町職員、包括支援センター職員、社会福祉協議会職員と民生委員・児童委員が、地域での活動状況を話し合い、課題解決に向けた大切な意見交換の場となっています。各関係機関からは、様々な制度や事業の説明がされます。地元の方の困りごとに対して少しでも力になるように、見識を高めています。会の雰囲気は、昔からの顔なじみが多く、和気あいあいとした中で、活発な意見交換を行っています。

5,700人ほどの小さな町でありますので、様々なところに民生委員・児童委員としての活躍の場が求められています。その中で色々な世代との関わりが出来る、それが人生の励みにもなっています。これからも、皆さんの身近な存在として活動していきたいと思えます。



岐阜県版ミンジー